

平成24年度予防接種協議会 議事録

【日時】平成24年8月23日（木）15時30分から16時45分

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】委員5名

志水哲也、鈴木有紀子、大野敏行、木村隆、舟橋武仁
事務局5名

高木次長、江崎所長、伊藤補佐、河原係長、吉村主査
欠席 委員1名 末永裕之

【次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議題
 - (1) 予防接種事故防止について
4. 報告
 - (2) 平成23年度実績について
 - (3) 平成24年度予防接種計画について
 - (4) 事前にいただいた事項について
 - ① ガーダシルとサーバリックスについて
 - ② DTの接種率について
5. その他
6. 閉会

【議事】

1. 開会（所長）

定刻より少し早いですけれども皆さんおそろいになりましたので、始めてまいりたいと存じます。本日は、ご多忙の中ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。ただ今から小牧市予防接種協議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。皆様の任期は今年の7月1日から26年6月30日までの2年間となっております。委嘱状につきましては、机の上に配布させていただきましたのでよろしくお願いたします。本日欠席のご連絡をいただいておりますのは、小牧市民病院長の末永委員でございます。この会議につきましては、公開となっておりますので、事務局で会議録を作成し、本庁にあります情報公開コーナーにおきまして公開させていただきますのでよろしくお願いたします。現在のところ傍聴希望はありません。会の開催に当たりまして健康福祉部高木次長よりあいさつを申し上げます。

2. あいさつ（次長）

皆さんこんにちは。今日午前中に夏の高校野球決勝戦が終わったということで夏の恒例行事が終わっていくたびに、秋が段々近づいてくるかなと思っております。まだまだ、日中は本当に暑い最中でございます。お身体には十分に気をつけていただきたいと思いますと思っております。

近頃、予防接種に関する規則などの改正がめまぐるしく行なわれている中、実際に予防接種を行っていただいております先生方には、大きな混乱もなくご協力いただきまして心から感謝申し上げます。市では昨年10月より水ぼうそう・おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業を開始しております。又、ご承知のとおり今年6月より国から9月1日からの不活化ポリオワクチン接種開始に向けた通知を受け、現在市ではその準備を進めているところでありますが、このワクチンは4回の接種ということでもあります。ますます、乳幼児期に接種する種類も増えてきております。接種事故の無いように又接種率の向上に努めてまいりたいと考えておりますので、より一層のお力添え、ご助言をお願いし、開会に際しての挨拶とさせていただきます。

3. 会長の選出（所長）

続きまして、会長の選出に入らせていただきたいと思います。小牧市予防接種協議会設置要綱第5条第1項により、会長は委員の互選により定めるとされています。皆様、いかがいたしましょうか。どなたかご推薦等ございましたらよろしくお願ひします。

今、鈴木先生の方から志水先生をとということをお願いしましたが、よろしいでしょうか。

皆様の賛同により会長は、医師会の志水委員と決定いたしました。先生よろしくお願ひいたします。それでは前の会長席の方へご移動をお願いいたします。

それでは、設置要綱第5条第3項の定めにより会長の、職務を代理する委員を会長よりご指名をいただきますようお願いいたします。

（会長） 前回からですけれども、鈴木委員をお願いしたいと思います。

ただいま、会長より鈴木委員とのご指名がございました。鈴木委員よろしくお願ひいたします。それでは、志水会長ご挨拶をよろしくお願ひいたします。

4. あいさつ（会長）

予防接種も複雑なんですけどやっとならび並みになってきて日本もVPD、いわゆるワクチンで防げる病気は防げるような時代になってきた。残念なことに多種混合ワクチンがあまり無いため、非常に接種が複雑で間違いやすい状態がまだ

しばらく続きそうですし、又今度のポリオのこともありますし、いろいろ予防接種に携わるドクターとしては、注意してやらないといけないと思っております。そういうことも含めまして今日の会議ではいろいろご発言いただきましてスムーズにいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

5. 議題

予防接種事故防止について

(事務局 説明 資料1)

先ほどから予防接種の種類が増えているということもありまして、予防接種事故の報告の書類について、件数が急に増えてきております。去年は年度で6件ありましたが、7月までの時点で今年度既に同じ件数の6件。ほとんどが接種間隔の不足ですが、ワクチンの違いであったり過剰接種という事例もありますので、今後まだこれから増えていく予防接種があるかとは思いますが、昨年9月に予防接種講演会の際に事故防止について講演をしていただいたが事故の件数に違いが無かった。逆に増えているということで、今後どのようにしていったら予防接種事故を起こさないような予防接種事業としていけるのか、効果的な方法について協議をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(会長) 非常に増えているということで、今年も昨年と同じ位の件数ありますが、県でも毎年増えてきています。予防接種に対する事故防止について注意していかなければいけない。これに対して何かいいご意見がありましたらお願いします。

(委員) 小牧市だけの問題ではなく日本全体ですので、資料を見てもわかりますように種類が増えていますよね。種類が増えれば当然そういう意味では事故も増えてはならないが現実そういう可能性もある。市民病院では確認が最も大事ですので、予防接種を受ける側に本人の名前であること、今日受ける予防接種の種類を名乗っていただくことをいつもおこなっているが、知らないうちにその間隔がきてしまうなど事務レベルでの問題であったりもする。いろいろな人が携わることはあまりいいことではないような気がします。予防策としてこのような形を取っています。

(会長) いろいろな予防策がありますがどうでしょうか。兄弟の取り違いですとか、ケアレスミスも多い。呼び込んでも別の子が入ってきたりこちらもびっくりすることがあります。何回も確認をするということが必要ですね。接種間隔の間違い、不足が多いようですがそれについては、何かいい方法はありますか。前打った先生がきちんと記載をしておく、伝えておくということが大事だと思います。

(委員) 現行の母子手帳でいわゆるヒブだとか(任意)、欄外に一緒になっていきますので少し見にくい点がありまして、何か見やすい予防接種ノートみ

たいなものがないですが、母子手帳をみて確認する側からいうと見づらいなという印象。単独の一種類だけでなく複数の種類を同時接種することがあるので、それに対応して見やすい記録を残せるものがあるといいなと思います。

(会長) たとえば小児科学会が出しているスケジュール表などですか。

(委員) スケジュール表であったり一覧表であったりを見本で渡している。不活化ポリオの前のやつなので、不活化ポリオが入ってくると又大変。

(会長) 9月から非常に複雑になってくるので心配。それにインフルエンザも加わってくるのでやる種類が多くなる。当然気をつけていかないといけない。

それと母子手帳の記載ですが、全然されていないところがある。一枚紙が貼ってあるだけで接種した日付もわからない。

(委員) それに関しては、持ってこないこともありその時だけ紙で発行するが、無くしてしまうこともあり、結局書かれないままになってしまうこともある。

(会長) ただ今は、母子手帳を持ってこないと接種してはいけないということにしていますよね。

(事務局) はい、受けられませんという風に保護者の方には周知しています。

(会長) 講習会みたいな講演会は2回ほどやったんですかね。

(事務局) 市としては、1回。後は医師会の主催でやっています。

(会長) 実際に効果があるかどうかわかりませんが。講習会みたいなものは年に1回ぐらい開いていくべきかどうか。

(事務局) 先ほど親子健康手帳の話が出ました。毎年刷り直しますその工夫は余地があります。ただ、今年度に関しましては、7月から新しいものを使用していますので、来年になります。先ほどスケジュール表、小児科医会のというお話がありました。

(委員) 小児科学会ですね。

(事務局) それは、不活化ワクチンが入り、新しく作っていただけるのであれば。

(会長) 日本小児科学会が8月5日に改正したものには不活化ポリオが入っています。日本小児科学会のHPから入っていけば出てきます。前のものでも1、2変わっているところがあります。

(委員) 追加ですか。

(会長) ヒブの追加接種④ですが、添付文書は③からおおむね1年とあるが、④は12か月から接種することで、適切な免疫が早期に得られると改定し、また水ぼうそうも2回目の推奨期間を「5歳以上7歳未満」から「18か月以上2歳未満」と次々と変わってきている。我々もよく見ていないとわからなくなってきました。これは定期接種ではありませんが。

(委員) BCGも期間が変わりますよね。

- (会長) もう少し後にしよう。あれを打つと他のものが打ちにくい。
- (事務局) 小児科学会の考えと国の考えは必ずしも一致しないんですか。保健センター、行政は法律に基づいてが基本的なんですが、打ち方というのを親子健康手帳に載せるためには、参考として小児科学会のものを載せさせていただければいいのか、そうではなく法律だと6か月以上あけるんですか。ヒブは1年、不活化の三種などは半年でしたね。でも、1年後にと聞いていますが。
- (会長) それか国立の感染症情報センターからとってもらうのも一つ。
- (事務局) 市として出す親子健康手帳の中に載せる情報をどこから載せたらいいのかわからないですが。
- (委員) 国のやつは結局、薬剤を作っているメーカーの添付文書の中に書いてある方法が国として認められた方法。それからずれていなければ問題ないと思います。基本は添付文書に書いてあるスケジュール。
- (会長) またはNPO法人「VPDを知って、子どもを守ろうの会」というのがありますが、その会もいろいろ出している。基本的には日本小児科学会の考え方が入ってくるのだらうと思います。それから予防接種の事故防止については、啓蒙する以外に方法はないと思いますが、県の小児科医会でも接種医としての資格について話し合ったことがあります。
- (事務局) 予防接種をする資格ですか。
- (会長) 講習を受けた人だけが接種できる、そういう地区も前にはあったように聞いています。
- (委員) 我々は慣れていますが、普段子供の予防接種をやられないような先生方にも医師会から委託という形になりますので、しっかり予防接種を勉強したお医者さん、そういう施設でやっていただきたいというのが小児科医会の考えだと思います。わかりやすく言えば。
- (会長) もともとは子どもの状態をよく知っているかかりつけ医でやりましょうというのが広域化の問題です。やり慣れたところの方が間違いは少ないだらうと。また定期的な講習会は聞いていただいた方がいいかと思いません。それからこういう間違いがありました、注意してくださいという情報を、詳しくは書かなくてよいが流すべきだと思います。また県の方にはきちんと届けていただきたい。
- (事務局) あげさせていただいています。
- その都度というか、予防接種を実施していただける医療機関にこういうことがあったということ流していくということも一つの意識をかえて行けるかもしれません。
- (委員) そういうことを繰り返す施設には。
- (事務局) ペナルティですか。
- (会長) それが難しいところですね。

- (委員) 医療安全のことも考えると。市としては、繰り返す施設に、予防接種をする資格の取り消しを行政としてやってもいいのではないですか。それぐらいの緊張感を持ってやっていただけることが大事だと思います。
- (会長) そんなところでしょうか。なかなか難しいですが。いろいろな書類を送付する際に入れて気をつけてもらうようにしてはどうか。これについて事務局からは何かありますか。
- (事務局) 来週不活化ポリオの説明会があるので、その場にたくさんの医療機関の方が集まっていたいただいていると思うので、文書だけでなく直接話をさせていただいて少しでも気をつけていただけたらと思います。基本的なことは医療機関の方に知っていただいていると思いますが、再度繰り返しお伝えできたらと思います。
- (会長) 是非、お願いしたいと思います。
- (事務局) 今すぐ出ることとして、ご提案いただいたその都度発信していくというのは、すぐにでもやれることですので今年度からやっていきたいと思っています。
- (会長) 事後処理はどうしたかというのは、把握していますか。謝っただけなのか、その辺のところは。
- (事務局) 把握はしていません。
- (会長) ある市町村では両者がすぐに対応するというところがあるようです。事後処理で。
- (事務局) 医療機関と行政が一緒にですね。
- (会長) そういう担当の人がいるところも何かに書いてありました。又調べておきます。苦情については愛知県医師会に苦情相談センターがありますので、そちらに相談していただくとか。
- (委員) 実はあるところで8月の終わりにそういう対応がありまして、国にあげるかどうかをその会議で、関係者が集まって相談するんですけど、愛知県北部で数箇所の自治体ではそういう会議をその都度招集してまますけど。小牧市は知りませんが。
- (会長) 小牧市はそこまでやっていない。
- (委員) 6年ぶりに健康被害について検討をあるところのことになっていきます。
- (会長) その子どもに何かあったんですか。
- (委員) 親からの訴えもありますし、ケースバイケース。生ワクチンに関する検討です。
- (会長) ロタワクチンで腸重積を起こしたとかではないですか。
- (委員) 他市のことですので、詳細は申し上げられませんが定期ワクチンの一つです。
- (会長) いろいろなことがでてきますので、そういう対応も行政としても考えて

おいた方が良いのでは。今の委員会の前は予防接種事故調査委員会でした。はしかワクチンで発症したという事例があり、小牧市で委員会を作りその後、この協議会になったと思います。防止が大切だが起きてしまった場合の対応も。

(事務局) 事故に関する第2条の中に、予防接種法の規定に基づく予防接種に関し次に掲げる事項を審議するとありますので、この協議会の中で検討することになります。

(会長) 何かのときに事故対応をどうしたかを把握しておく必要があると思います。

それではよろしいでしょうか。他に何かありますでしょうか。場合によっては臨時の会議ということもありうるってことで。

(事務局) その節はよろしくお願いします。

6. 報告

(1) 平成23年度の実績について

(事務局説明 資料2)

(2) 平成24年度予防接種計画について

(事務局説明 資料3)

《質疑応答》

(会長) 23年度の実績についてご質問があれば。
比較的接種率はいいように思いますが。

(鈴木) 二種だけは低いですね、相変わらず。

(大野) 麻しん撲滅最終年ですよ。あれを達成する為には95パーセントでしたか。一年目からなかなか95は達成できていないですよ。

(会長) 中1が少ないですね。

(鈴木) DTもそうですが中学生が打たないですね。親御さんが連れてくるのがなかなか難しい。DTも増えないのはそのためかもしれません。中学生は部活何かで忙しく来れないのかもしれませんが、なかなか来てもらえませんね。3期もそうですし、高校生は一人では来れるが中学生は来れない。

(会長) 友達のやっていない人には言ってよと伝えているが。
もう少し延期になるということはないですか。以前検討するという話もありましたが。

(委員) 現時点はわかりません。

(会長) 今のはしかは輸入が多いようですね。日本のものはかなり抑えられている。

(委員) 岡崎でこの冬ありましたが、型を調べると外来種でした。

- (会長) 9ページの定期外予防接種ですが、自分から希望してみえるんですか。過ぎちゃったけどどうしようと言う人ですか。
- (事務局) そうですね。後は健診等で過ぎたけど手続きをすればやれますよとお伝えして申し込んでいただいた人です。
- (会長) 肺炎球菌とヒブがあいち小児保健医療総合センターの集計で小牧は接種率が低い。愛知県全体で下の方でしたね。何がいけないのか聞いてみたのですが、啓蒙が足りないのではないかとということでした。接種率はあいち小児から調査がきたのでしょうか。
- (事務局) 毎月、接種の人数を県に報告していますので、その統計だと思います。
- (会長) 県のほうで把握しているんですね。山崎先生がある会で報告していましたので。PRをしていただいたほうがいいですね。それではよろしいでしょうか、23年の実績について。中1、高3は学校にも言ってもっとやってもらうように。二種もそうですね。二種は少ないような気がしますが、そうでもないですね。
- (委員) 少ないですね。前よりは増えてますけど。
- (会長) よろしいでしょうか。それではないようですので、24年度の計画についてお願いします。広域化の件数は、定期のものだけなので任意のものが入っていないのであまり増えていないですね。今愛知県全体の広域化について、県の医師会で動き出しています。それを進めるには任意のものまでなると難しいですね。これも元はかかりつけ医でやるということがいいということで始まったもの。どうでしょうか。
- (委員) 2番めの不活化ポリオについてですが、この辺りだと名鉄病院で接種されている方が時々いますが、その場合はそれは1回目という形なんですか。製剤としては輸入物ですよ。
- (事務局) 1回終わったという形になります。
- (委員) 1回終わったという確認でよろしいんですね。
- (会長) あれはですね、変わってもいいということが実証されたと聞いた気がします。4回目はまだ国のほうが決めていないですよ。4枚とも最初に送ってしまいますか。
- (事務局) はい。有料になりますという注意書きを一番見やすいところに書いて、必ず4回目の方は保健センターにご連絡くださいという風に注意書きを一番見やすいところに。
- (会長) 今年ぐらいには決まってくるんですよ。
- (委員) そうですね。
- (会長) 中には4回目だけという人もあり得ますか。
- (事務局) あり得ますね。
- (会長) そういう人がやりに来てうってしまおうとややこしくなりますね。ある先生から聞かれましたが、9月1日から始めて大丈夫ですか。

- (事務局) 大丈夫です。そのように契約させていただく準備をしています。
- (会長) ただワクチンが十分でないかもしれないということを言っていますが、前のインフルエンザの時のように大事になると心配ですが。ただ、生ワクチンを小牧でやっていただいたので、それだけでも助かりました。メーカーさんも9月からやってほしくなかったと言っていました。
- (委員) 11月からと言われていたのに急に9月になったからと。
- (委員) 1社だけですからね。
- (委員) 4種になるのがわかっているのになぜやるのかって思います。なぜ11月まで生をやってからでも良かったのでは。3か月のことなぜ待てなかったのか疑問に思います。生ワクチンがあるわけですから無ければしょうがないですけど、あるんですから待っても良かったんじゃないかと思います。
- (会長) はんこを押していただくのは、生ワクチン未接種の人の4枚目と生ワクチン1回接種している人の3枚目に押すんですか。3回目は、ずれますよね。4回目だけですか。
- (事務局) 追加接種、4回目の分が1月過ぎになります。
- (委員) 1回接種している人は、不活化3回目が追加接種ですよ。
- (会長) 1回生やってる人は、3回目の分もはんこを押してもらわないかんですよ。2回やって半年以上あけて追加になるので押してないといけない。
- (事務局) その注意書きということですか。すべてのものに書かせていただいています。
- (会長) 1回目とかにもですか。
- (事務局) 印刷になっていますから。
- (委員) 現物は見せてもらえないですか。
- (事務局) すいません。印刷が間に合っておりません。今発注しています。
- (会長) 9月1日導入時点での4回目追加接種は定期接種対象外ということですよ。
- (事務局) 予定として1月ぐらいからと。
- (委員) 混乱しそうですね。BCGを含めて今年から来年にかけて混乱があるのでは。
- (会長) それについての注意を促しておいてください。
BCG接種は、せつかく4か月健診でやって接種率も高いのに減っていく可能性がありますね。
他には、どうでしょうか。
- (委員) 水痘、おたふくの全額助成のただし上限ありというのは。
- (事務局) 小牧市内で接種する場合、契約はしていませんがだいたいこれぐらいでという金額で医師会にお願いをしている。市内で接種する場合は自己負担なく無料で接種できていると思われま。市外で接種される場合は

自己負担が発生することがあります。

(会長) 不活化ワクチンの費用は決まりましたか。

(事務局) 医師会とは協議して決めています。

(会長) 他には何かありませか。水痘も2回分はでないですよ。

ロタの助成は検討していませんか。

(委員) 名古屋市は秋から半額助成しますね。

(会長) 助成していただければありがたいですが。

他によろしいでしょうか。

報告3に入ります。ガーダシルとサーバリックスについて、鈴木委員お願いします。

6. 報告3-1と3-2

(参考資料4)

(委員) どちらがいいのか質問されてもどちらがいいとは言えない。2価と4価については、話をするが答えようがなくて困っている。プロパーさんに聞いても自分たちのほうがいいとしか言わないし、尖圭コンジローマもいやな病気だと思っていますし、皆さんどうお答えになっていますか。

(会長) 市のほうでは、ガーダシルにかわってきていますか。

(事務局) 医療機関によってはガーダシルを入れてない医療機関もあるようでサーバリックスで接種されている方もいます。半々くらいですかね。

(委員) 打つときに皆さん怖がっているんですね。痛いということ。

(会長) 患者さんの方から新しいほうでやってくれという方が増えてきた。

うってみて痛みはどうか。

(委員) 痛いのは同じように痛いみたいですね。でも失神を起こす人はありませんでした。聞いていたより痛くなかったという人もいますし。

(会長) あくる日の方が痛いんですよ。大人の人で自動車の運転ができなかった人もいます。

(委員) 手が上げられないくらい痛かったという人もいます。

(会長) 市民病院ではどのように説明されていますか。

(委員) 市民病院は小児科ではなく婦人科の方で接種されている。一剤になるんですが、婦人科の方の一存でガーダシルを使用。2価より4価のほうがいいだろうと。

(会長) たしかに尖圭コンジローマを予防できれば。

(委員) 私もあんなったらやだなと思いますから。

(委員) 又、ロタリックスとロタテックも2種類になるので、そのときに議論がでてる。

(会長) 2回と3回の接種と違いますから。アメリカはたしか3回ですね。

(委員) お母様たちに決めてもらうしかないですね。ありがとうございます。

(会長) D Tの接種率は先ほどでましたけども、これは学校にしょっちゅう言ってもらえないですかね。教育委員会から言っていたか、はしかも3月までですから、はしかもたしかに撲滅しようと思えばもっとあげる必要がある。是非学校の方にPRしてもらえない。

(会長) 他には特に何かございますでしょうか。全体を通じてでも結構です。

7. その他

(委員) ロタの助成は将来的には。

(事務局) 今のところ白紙です。

(委員) 本庁のほうにアピールしないと予算がこないんですか。

(事務局) 小牧市は水ぼうそう、おたふくも全額助成していて、財政的にもいつまでも豊かではございませんので、どう考えて今後予防接種事業を進めていくかというところです。

(委員) 予算は計上してあるんですか。

(事務局) ロタのですか。しておりません

(会長) それは、医師会から要望書を出さないといけない。

(委員) お尋ねですが、この地区で6価ワクチンを輸入して実施されてる医療機関はありますか。

(会長) 聞いていないです。ありますか。

(委員) ないです。

(委員) 聞いてないです。

(委員) この地区だと名鉄病院まで行かれる方が結構みえる、大同までは行かないと思いますけど。

(会長) 6価はフランスかベルギーのものですか。

(委員) ドイツですね。向こうにいた時は、全部これでやっていたんですけど。先生がおっしゃってた多種同時に接種ということになるとBCGを6か月未満でやろうと思うとめっちゃくちゃ忙しい。それを同時接種以外に手がないう状態になっています。日本の同時接種をするのは、その数だけうたなければいけないので、乳幼児の負担も大きい。もう一歩進んで小児科医会からでも国にプッシュしていただいて、これでロタも入ってきたら大変ですし、これでBCGも個別になったらこれも困りますし。

(会長) 今は、BCGと同日接種は認めていないですが、同日接種を認めているところもある。責任の所在がもし何かあったときに難しくなります。

(事務局) 6価ワクチンというのは、何と何になりますか。

(委員) DPTとヒブとB型肝炎とポリオです。それに又、加えるというのを開発されている。最初6種ってあるのってびっくりしたことがあります。10年前ですが。多種ワクチンを導入しないといろいろな間違い、数が

多くなればなるほど過誤も起きてきますので、同時にやるというのが減らす方法それしかないと思います。

(事務局) 国の方の委員会ではそのような話題が出ているのでしょうか。

(委員) 出ていると思います。

(会長) 日本のワクチン行政が遅れている。厚労省の責任が大だと思います。

(委員) それこそ日本では、B型肝炎のワクチンはキャリアじゃないと打てないんですよね。外国はどんどんやっている。

(委員) 外国の方はやっていますね。必ずやりたいて言いますね。

(会長) 日本は母子感染があるからということで。

(委員) フィリピンでもやっていますから。

(会長) A型肝炎もやっているところもありますね。

他には何かよろしいでしょうか。もう少し多種混合ワクチンをやってもらわないと、ケアレスミスがいくつか増えてくる可能性がある。

(委員) これだけ予防接種事故があるのは、行政が悪いんだと厚労省のトップに突き詰めるくらい言えたら。複雑にしてと。

(会長) それではこれでよろしいでしょうか。

特にないようですので議事もこれで終了したいと思います。

8. 閉会